

# 地域における医師会・薬剤師会の新たな連携事例 ～共同でのフィジカルアセスメント研修への取り組み～

2014年11月20日開催

地域包括ケアシステムの構築へ向け、医師会・薬剤師会の新たな連携の動きも拡大している。在宅医療が進む中で薬剤師によるフィジカルアセスメントへの関心も高まっている。今回のセミナーでは、医師会・薬剤師会共同でのフィジカルアセスメント研修を実施した東京都中野区の取り組みについて、研修の実務に携わった先生方にお話しを伺った。

## シンポジウム

講演 ①



### 地域における医師会・薬剤師会の新たな連携事例 ～フィジカルアセスメント研修の意義と薬剤師への期待～

一般社団法人 中野区医師会 副会長/  
医療法人社団 渡辺会 大場診療所 副院長 **渡辺 仁** 氏

#### 中野区の顔の見える関係(連携)を目指す三師会の取り組み

中野区の顔の見える関係(連携)を目指す取り組みとして、これまで三師会(医師会、薬剤師会、歯科医師会)の開催、学校保健会(学校三師会懇談会)、薬剤師と合同で行う休日診療、医師会主催の医学会への参加、区民公開講座などの共催、区主催の区民イベントへの合同参加、災害支援での協力、災害対策、多職種合同の研究会などに取り組んできた。

#### 帝京平成大学と医師会の関係

平成25年に帝京平成大学のキャンパスが中野区に移転してきたのを機に医師会と大学の連携が始まった。大学の先生方には医師会の講演会や緩和ケア事業などの地域医療事業に参加、医師会の先生方には大学で講師として講義や講演をしていただいた。また、帝京平成大学が主催する卒後生涯教育実地研修会「在宅医療への参画を目指したキャリアアップセミナー」では、「フィジカルアセスメント実習の基礎」について講義を行った。この講義を通じて、薬剤師の薬学的管理や副作用の発現状況ならびに有効性の確認、専門性を活かした他の医療スタッフへの薬剤に関する指導や相談対応、また、緊急調剤への対応など薬剤師の役割の重要性を再認識した。

#### 在宅医療における服薬の問題点

在宅医療では、複数疾患を有する高齢者の多剤併用、独居老人、老々介護の増加などの社会的状況が薬に関する

様々なリスクを招いていることが考えられる(図1)。認知機能や視力、嚥下機能の低下による飲み忘れ、飲み残しなどの服薬アドヒアランスの低下、誤った薬の知識によって服薬を自己調節する方も多くなっている。複数の診療科にかかっている間に薬が重複投与され、相互作用のリスクが発生している場合もある。さらに、加齢による腎機能、肝機能などの低下による副作用のリスクなど、さまざまな問題がある。このような状況において、服薬管理指導が不可欠になってきた。処方内容、用法・用量、重複投与、相互作用、服薬状況の確認、服薬管理を行うのは誰(家族等介護者)なのか、残薬の確認、本人及び介護者の服薬のアセスメント、服薬アドヒアランスの向上のための指導と工夫、体調(食事・排泄・睡眠・嚥下機能など)の確認、処方薬の効果と副作用のモニタリングなど多岐にわたる。月2回程度の医師の在宅訪問では、服薬管理や指導を行うことは不可能な状況である。

図1 在宅医療における服薬の問題点

- ・ 高齢者の複数疾患の合併による多剤併用
- ・ 独居老人、老々介護の増加等社会的状況が、薬に関する様々なリスクを招いている
- ・ 認知機能低下や視力低下
- ・ 嚥下機能低下
- ・ 飲み残し・飲み忘れなどの服薬アドヒアランス低下
- ・ 誤った薬識、自己調節等
- ・ 重複投与、相互作用のリスク
- ・ 加齢による腎機能・肝機能等の機能低下による副作用のリスクなど

このような状況において、**服薬管理指導は不可欠!**

図2 薬剤師への期待(医師からの)

- ・ 薬剤の投与方法・投与間隔の適正化
- ・ 用法・用量の統一化、簡便化の提案
- ・ 剤形（症例に応じて貼付薬や、OD錠等を選択）
- ・ 処方薬を服用・使用する意義についての服薬指導
- ・ 治療効果を高める処方薬の提案や、副作用の早期発見
- ・ 副作用軽減の為の処方設計の提案
- ・ 介護保険サービスの積極的な利用と連携
- ・ 訪問看護・訪問介護・介護支援専門員等多職種との連携 など

出来れば、医師に対し、

**必要に応じ薬剤の変更や中止等の提案もほしい。**

## 医師が薬剤師へ期待すること

薬剤の投与方法や投与間隔の適正化、用法・用量の統一化、簡便化を図ることや症例に応じたOD錠、パップ剤など最適な剤形の提案、処方薬を服用・使用する意義についての説明、治療効果を高める処方薬の提案、副作用の早期発見などが今後は重要になってくる。さらに、副作用軽減のための処方設計の提案、介護保険サービスの積極的な利用と連携、また訪問看護・訪問介護・介護支援専門員などの多職種との連携を図ることも期待している。医師に対しても必要に応じて薬剤の変更や中止などの提案をしていただけるとありがたい(図2)。

## 講演 ②



## 帝京平成大学にて開催した 中野区薬剤師会・中野区医師会実地研修会の概要

一般社団法人 中野区薬剤師会 副会長 小川 達也 氏

### 実地研修会開催までの経緯

中野区薬剤師会では以前より中野区医師会、歯科医師会、中野区病院薬剤師会、行政などと連携をとっている。平成24年、中野区病院薬剤師会と情報交換会を開催した際、病院薬剤師の方がフィジカルアセスメントについて発表されたことをきっかけとして、本会でのフィジカルアセスメントの実地研修会の実施について検討を始めた。しかし中野区薬剤師会でフィジカルアセスメントの実地研修会を開催するにも、薬剤師会の中で講師を探すことが難しく、さらにテキストの選定、聴診器、血圧計など、どこまで準備を行えばいいのか見当がつかなかった。薬剤師会での開催は不可能かと思われたが、そんな時に帝京平成大学薬学部が中野区に移転してきた。そこで帝京平成大学薬学部・中野区薬剤師会地域医療連携推進に関する協定書を締結し本格的な交流を開始した。協定書は、区民の健康と福祉への支援、啓発および発展に貢献するとともに、薬剤師の資質の向上と薬学生の育成に関する内容となっており、その一環として実地研修会の開催ができるようになった。

### 実地研修会の内容

実地研修会の開催までの間、帝京平成大学薬学部長や教授と共に協議を重ね、薬剤師の卒後教育として実地研修会を行うことになった。

事業には、区民を対象とした事業、薬剤師を対象とした事業、薬学生を対象とした事業があるが、今回は薬剤師を対象とした事業について紹介する。1つ目は計量散剤調

剤の考え方と実践、2つ目がフィジカルアセスメントの基礎、3つ目が注射剤の混合調製の実際となっている。

計量散剤調剤の考え方と実践については、調剤過誤の当事者とならないために最近の医療事故などの講義を受けた。

フィジカルアセスメントの基礎では、薬剤師によるフィジカルアセスメントの目的・意義や医療の基本である医療面接についての講義を受けた。また、脈の取り方、聴診器の使い方についての説明を受け、隣の方と実際に脈をとる練習や聴診器で心音や呼吸音の確認を行った。さらに、帝京平成大学にある2体の人体モデルを使って視診、触診、聴診の基本を体験した。呼吸やSpO<sub>2</sub>、腸音に関する基本的知識について講義を受けた後、肺音・腸音の正常音と異常音を確認した。翌日には心音、心電図に関する基本的知識について講義を受けた後、それぞれの正常、異常について確認を行った。また聴診器を使う前にまず喫煙歴や生活歴、職業歴を聞くこと、問診を行うことが非常に大事なことだということもお話いただいた。

その後、人体モデルに疾患を起こさせて症例検討を行った。気管支喘息における肺音の特徴についてや治療薬における副作用の特徴(検査値、症状など)を議論し、気管支喘息患者に対するフィジカルアセスメントを実施した。次に受講者は肺を患っている人体モデルの肺音や心音、腸音、血圧、喫煙歴などを読み取って、どんな病気に罹患しているのかを議論した。その後、病名が気管支喘息とわかり、その患者モデルに治療が施されたという前提で患者の様子、容体をチェックした。この患者モデルの治療

薬には抗コリン薬と $\beta_2$ 刺激薬があったため、患者の脈拍の増加と腸音の減少を読み取ることができた(図3)。

次に、循環器疾患の症例検討を体験した。うっ血性心不全の病態(症状、検査値、治療薬など)についてや心音、肺音の特徴、ジギタリス製剤における副作用の特徴を議論、うっ血性心不全に対するフィジカルアセスメントを実施

### 図3 呼吸器疾患の症例検討

- ・気管支喘息の病態(症状、検査値、治療薬等)について
- ・気管支喘息における肺音の特徴を議論
- ・気管支喘息治療薬における副作用の特徴(検査値、症状等)を議論
- ・気管支喘息患者に対するフィジカルアセスメントを実施
- ・気管支喘息患者に対するフィジカルアセスメント結果を用いて症例を検討、発表

した。さらにそのフィジカルアセスメントの結果を用いて症例を検討し発表を行った。この患者モデルはジギタリス中毒にかかっているという設定だったので、人体モデルから徐脈、悪心、嘔吐などの副作用を読み取ることができた。

次に、注射剤の混合調製の実際についての実地研修会を行った。手洗い、クリーンベンチの保守点検法、輸液、TPNの考え方、無菌混合調製の実践、TPN調製の実践、投与ルート、輸液の種類と基本的知識、抗がん剤調製における安全対策について研修を行った。

地域医療連携として、帝京平成大学薬学部・中野区薬剤師会・中野区医師会が一つになり、「フィジカルアセスメントの基礎」に関する実地研修会を行えたことは普段から医師会の先生方と連絡を取り合い、協力し、顔の見える関係を構築してきたことの結果である。今後も連携を深めて中野区の医療資源を区民に還元できるようにしていただきたい。

### 講演 ③



## 中野区における医師会・薬剤師会の連携について

一般社団法人 中野区薬剤師会 副会長 高松 登 氏

### 中野区におけるこれまでの医師会、薬剤師会の取り組みについて

はじめに、中野区において医師会と薬剤師会が連携を効果的に発揮できている理由について話したいと思う。私は薬剤師会に携わるようになってから、医師会が実施している地域医療に関する取り組みに参加するようになった。そして中野区薬剤師会が社団法人から一般社団法人へと移行したことを機に、公益事業について意識するようになった。公益目的であるからには、地域のニーズに対していかに区民へ還元するかを考えて事業を行うようになり、また、今後の高齢化を見越した地域包括ケアシステムや災害医療の対策などでも連携を取る必要が出てきた。中野区における各種行政の会議が地域医療・介護のシステム構築に重要な役割を担っているため、会議に参画して、意見交換や情報交換をするようにしている。

また区民向けの公開講座を医師会主導で、歯科医師会、薬剤師会が協力し開催している。災害医療対策は東日本大震災の経験から地区の中でも喫緊の課題であり、東京だと地域における災害医療コーディネーターや災害薬事コーディネーター等との連携、そして薬剤師としての立場では、災害時の医薬品供給体制整備などに取り組む必

要がある。このような体制構築には行政、医師会、薬剤師会がしっかりと協議を行っていかなければならない。

### 多職種連携のきっかけ

多職種連携が進むきっかけとなったのが、「生活習慣病研究会」である。この研究会には多くの医療専門職を中心に教育関係者、行政などが参加し、それぞれの分野から研究成果を発表し、互いの知識向上と共有に努めてきた。平成11年11月に第1回として「生活習慣病の考え方・生活習慣病と栄養」をテーマにさまざまな職種の方が発表され、その発表に対してディスカッションを行った。第2回は「医師会における取り組み 歯科領域での生活習慣病」、第3回は「喫煙と生活習慣病 薬剤から見た生活習慣病の増悪因子」、第4回は「生活習慣病と運動」、第5回は「ストレスと生活習慣病心の健康づくり」等、趣向を変えてほぼ毎年実施し、第11回「特定保健指導」までをテーマに行ったところである。

### 区民向けの啓発イベントの開催

区民向けの啓発イベントとして、平成16年7月に「生活習慣病における医・食・住」をテーマに、公開シンポジウム



を開催した。また、この時に区民向けに『生活習慣病を知る』という小冊子も作成した。第2回は平成17年7月に「今ならなおぞ！糖尿病」というテーマで実施した。また、研究会のメンバーが実際に中野区を歩き回って、ウォーキングに適した場所を探し、中野区のウォーキングマップを作成した。第3回では健康イベントとして、マラソンで有名な瀬古監督を招いて、参加者と共に平和の森公園をウォーキングした。第4回は健康づくり月間講演会、そしてミニシンポジウム「生活習慣病予防の実際」。その後、調理師専門学校の協力を得て第5回は「メタボにならない男の料理」、そして第6回は「体にやさしいスイーツ」をテーマにイベントを開催した(図4)。

診療報酬改定時には、医師会と薬剤師会の合同開催で、診療報酬改定の講習会を行った。平成26年4月には、薬剤師会に平成26年度調剤報酬改定とそのQ & Aについて、医療コンサルタントに医科のQ & Aについて説明していただいた。行政会議関連では、中野区保健福祉審議会(介護・地域包括ケア部会、健康部会)、中野区摂食・嚥下機能支援推進協議会をはじめ、在宅療養を進めていくための在宅療養推進協議会や在宅療養ケア体制支援事業協議

会、介護認定審査会など、それぞれ医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護職種の方も含め行政会議へ参画している。

中野区医師会においては、「緩和ケア多職種連携を中野から！」という、医療者のための緩和ケア研修会を行った。第一部ではシンポジウムを開催し、医師会が「訪問診療の現状と課題」、訪問看護ステーションが「訪問看護の現状と課題」、薬剤師会が「在宅緩和ケアにおける薬剤師の現状と課題」、そして東京医科大学病院総合相談・支援センターが「拠点病院連携窓口の現状と課題」というテーマでそれぞれ講演していただき、その後にグループワークを行った。このような多職種合同でイベントを開催することが連携の際にはとても効果的だと考えている。

### 今後の連携の方向性

今後の連携については、地域包括ケアシステムにおける医療・介護の連携機能強化と定着化がある。医療人として地域のために何ができるか、何をすべきかを常に考えて、共通の目標として協働していく。今後も新しい取り組みを通して、幅広く深い連携へと発展させていきたい。

#### 図4 生活習慣病研究会活動実績

##### ・区民イベント

- |     |   |                    |
|-----|---|--------------------|
| 第1回 | 公開シンポジウム (平成16年7月)<br>「生活習慣病における医・食・住」        | 小冊子作成「生活習慣病を知る」    |
| 第2回 | 公開シンポジウム (平成17年7月)<br>「今ならなおぞ！糖尿病」            | 小冊子作成「ウォーキングマップ中野」 |
| 第3回 | 健康イベント (平成18年5月)<br>「瀬古監督と一緒に歩こう」             |                    |
| 第4回 | 健康づくり月間講演会・ミニシンポジウム (平成19年1月)<br>「生活習慣病予防の実際」 |                    |
| 第5回 | 生活習慣病対策の調理実習 (平成19年11月)<br>「メタボにならない男の料理」     |                    |
| 第6回 | 生活習慣病対策の調理実習 (平成20年11月)<br>「体にやさしいスイーツ」       |                    |

## まとめ

株式会社イニシア 田原一 氏(司会・進行担当)

今後は、今回の中野区の事例に見るように医師会と薬剤師会が共同して地域包括ケアに取り組んでいくことが非常に大切になってくる。その中で今回のテーマとなった薬剤師によるフィジカルアセスメントは、それ自体が目的ではなく、あくまで地域医療に薬

剤師がより貢献するための手段の一つであることが、今回再認識されたと思われる。また、普段からの協力関係作りがこのような研修の実施につながった点も見逃せないところである。

本セミナーにご出演いただいた各先生のご講演と、事前にお寄せいただいた質問に対するディスカッションパートの動画は、[沢井製薬 医療関係者向け情報サイト「sawai medical site」](http://med.sawai.co.jp)にて、ご視聴いただけます。

<http://med.sawai.co.jp/topics/seminar/> または [検索 沢井製薬 Webセミナー](#) でアクセスしてください。